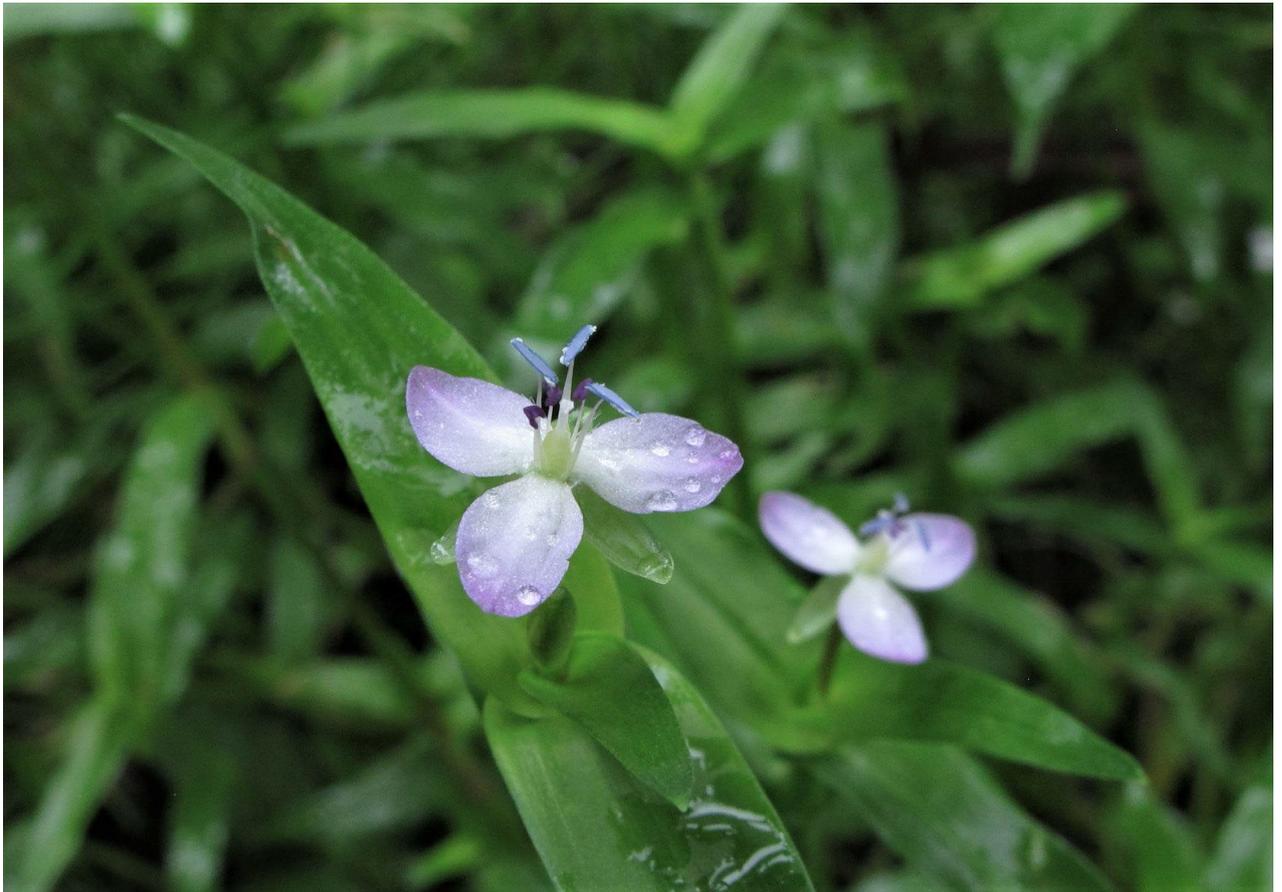


緑化だより

No.184 令和4年7月号



イボクサ

- 季節の花(トキジキフジ(ナツフジ))
- 水生昆虫の話(カワゲラの仲間
クラカケカワゲラ属)
- 小さな世界こけ
(ゼニゴケの花)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

うらま びび学 の 森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

トキジキフジ(ナツフジ)

「わが宿(やど)の 時(とき)じき藤(ふじ)のめづらしく

今も見てしか 妹が咲容(ゑまひ)を」

大伴家持 万葉集 巻8-1627

これを訳しますと

(我が家の庭先に季節外れに咲いた藤の花のように、めづらしく、

今も愛らしいあなたの笑顔を今すぐにでも見たいものです。)

「ゑまひ」(笑まひ)はにっこりとほほ笑むことです。

奈良時代の天平12年(740年)夏6月(陽暦では7月)、大伴家持が23歳の時、もうすぐ妻となる坂上大嬢(さかのうえのおおいらつめ)に贈った歌です。

ナツフジは万葉名を非時藤(トキジキフジ)といい、季節外れのフジの意味です。

現代名のナツフジ(夏藤)は春に咲く薄紫色の穂の長いフジの花の姿に似ていて、夏に穂の短い白い小さな花が、咲くことからナツフジと言われます。別名の土用藤(ドヨウフジ)は夏の暑い、土用の丑の日の頃に白い小さな花を咲かせるからです。ナツフジはマメ科ナツフジ属ツル性落葉樹でツルは左巻きです。

本州(関東以西)、四国、九州に自生する日本固有種です。丘陵から低い山地の明るい樹林内に生えます。7~8月頃、淡黄白色で長さ10~20cmの蝶形花が多数ついて垂れさがります。果実は10~15cmの豆さやです。

江戸時代の元禄8年(1695年)、わが国で初めて出版された園芸書『花壇地錦抄』伊藤伊兵衛(三之助)著の中に土用藤としてナツフジが記載されています。

ナツフジのツルは繊維が丈夫で、編んで椅子やかごの材料とされ、地面をはっている部分は強度があり、江戸時代に紀伊半島では、いかだ流しのいかだを編むのに使用しました。

夏に、清楚で、白くかわいい花が咲いている姿は美しく、公園、庭園、のり面緑化として植栽されています。(上村)



ナツフジの花

水生昆虫の話

カワゲラの仲間(クラカケカワゲラ属)

広島県緑化センターの溪流で見つけた、オオヤマカワゲラと同じく大型で存在感があるカワゲラの仲間、頭部の模様が異なるタイプのクラカケカワゲラ属をご紹介します。

クラカケカワゲラ属は、日本国内で3種(ヒトホシクラカケカワゲラ、スズキクラカケカワゲラ、オオクラカケカワゲラ)が知られています。

それぞれ「すみわけ」をしており、オオクラカケは山地溪流、スズキクラカケは山地溪流~平地溪流、ヒトホシクラカケは平地溪流と、少しずつ違う場所に生息しているようです。中でもオオクラカケカワゲラの幼虫は、緑化センターの溪流のように木々が生い茂った自然度の高い溪流で、石がゴロゴロしている場所で見ることが出来る大型の肉食系カワゲラで、他の水生生物を

捕食して成長します。ちなみに成虫は、他の多くの川虫と同様で、夜間に該当などの灯火によく飛来してくるようです。

写真の個体は、緑化センター第二駐車場の横を流れる小川の大きめの石をめくると、裏側にしっかりしがみついていたもので、腹部(第8~10節の斑紋パターン:ただし地域変異があるようなので注意が必要)の特徴から、オオクラカケカワゲラの幼虫であると思われます。2~3年ほど水中ですごしたあと、春から夏にかけて成虫となり飛び立ちます。

写真の個体は、3cm程のサイズ、翅芽がはっきりわかるくらいに成長しているなどから終齢幼虫であると思われます。

ちなみに、カワゲラの抜け殻は下段写真のような感じで、石の上でトンボのヤゴと同じように羽化し、成虫となって飛び立ちます。

カワゲラ類の幼虫は、郷土料理として食用として利用されている他、溪流でエサ釣りをされる方にとっては、サケ科魚類の、食いが抜群の天然のエサとして重宝される川虫でもあり、釣具屋さんで真空パックや瓶詰めなどにして「オニチョロ虫」というネーミングで販売されています。ちなみに私は「ゲラ」と呼んでいます。日本全国いろんな地方名がありそうなので、調べてみると面白そうですね。(西村)



オオクラカケカワゲラ



クラカケカワゲラ属の抜け殻

小さな世界 こけ

ゼニゴケの花

やや日陰で、湿り気のある庭の片隅などに見られるゼニゴケですが、6月中旬から7月の時期、身をかかめてよく見ると、高さ3cm、径1cmくらいの破れ傘の様な花が林立しているのが見られます。

ゼニゴケの雌株は、深く6~10裂した傘をつけます。これを**雌器床**と言います。受精するとその下にぶら下がるように胞子体を作ります。

胞子体は、胞子のうと蒴柄からなります。成熟すると胞子のうが割れ、弾糸を使って胞子をはね飛ばします。

右下の写真で、黒っぽく写っているのは胞子のう、糸状の黄色の塊は弾糸です。

雄株と雌株が混生している場所では、受精後胞子のうが作られますが、どちらか一種類だけの群落では受精できないため、傘(雌器床)はつけても胞子体はできません。

このような雌器床はタイ類の中でもジャゴケ、ケゼニゴケ、ジンガサゴケ、フタバネゼニゴケなど、ゼニゴケの仲間に見られる特徴で、雌器床は長く残ります。(山根)



ゼニゴケの雌株



ゼニゴケの雌器床と胞子のう

研修会のご案内

- | | |
|--|--|
| ○7月 1日(金) 『7月の自然探勝』
散策路を歩きながら植物を観察します
※自由参加、無料、荒天中止 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：緑花文化士
横山 直江 |
| ○7月 1日(金) 『ラン学ことはじめ』
県内の野生ランの特徴と見分け方について
※自由参加、無料、ルーペ持参、荒天中止 | 13:30～15:00 学習室 集合
コーディネーター：駄賀 恒男 |
| ○7月 3日(日) 『夏のきのこ教室』
園内でキノコを採集し、午後、持ち寄ったキノコを鑑定します
※自由参加、無料、採集用かご持参、荒天中止 | 10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章 |
| ○7月 17日(日) 『夏休み昆虫教室』
昆虫の生態や採集方法を学び、屋外で採集します
※要予約(定員に達しました)、無料、採集用具持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(環境部門)
亀山 剛 |
| ○7月 17日(日) 『夏休み自由工作塾』
※自由参加、(随時受付)、材料費1作品100円、荒天中止 | 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧 |
| ○7月 18日(月・祝) 『藍のトントン染め』
藍の葉をトントンたたき、ハンカチを染めよう
※要予約(先着10組)、材料費500円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：サイエンスインストラクター
山縣 圭子 |
| ○7月 24日(日) 『昆虫標本作り入門』
昆虫について学び、標本を作ります
※要予約(定員に達しました)、材料費1,000円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(森林部門)
相良 伊知郎 |
| ○7月 24日(日) 『夏休み自由工作塾』
※自由参加、(随時受付)、材料費1作品100円、荒天中止 | 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧 |
| ○7月 31日(日) 『夏休み自由工作塾』
※自由参加、(随時受付)、材料費1作品100円、荒天中止 | 10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧 |

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。
また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。
ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内 ☆♪

7月、8月の土、日、祝日は午後5時まで開園します。

◎展示会

場所:レストハウス
(ボード展示)

令和3年度広島県愛鳥週間ポスター

入賞作品展 7月12日(火)～8月9日(火)

(ガラスケース展示)

布あそびキルトサークル ミニ作品展

サンリブカルチャー可部教室 作品展 7月3日(日)～7月31日(日)

サンリブカルチャー府中教室 作品展 8月3日(水)～8月30日(火)



令和3年度広島県
愛鳥週間ポスター入賞作品展より